



静脈注射の技術テストの様子

新人看護師の静脈注射の技術テストを実施

新人看護師（31名）に対する静脈注射の技術テストが9月28日と10月5日に実施されました。

この日までに新人看護師は、静脈注射の基本的な知識や技術、安全・感染の知識を習得してきました。

テストは新人看護師が静脈注射を適切で安全に行えるかを判断するものです。新人看護師は緊張した面持ちで、手順を一つ一つ声に出して確認し、先輩看護師が評価表に沿って技術をチェックしながらテストを実施しました。

医療連携医の皆様へ医療連携室のFAX番号変更のご案内

医療連携室では、FAXの誤送信を防止するため下記の通りFAX番号を変更させていただきます。また「患者送り状」と「検査依頼書」も一部変更させていただきます。新しい用紙は当院のホームページ「医療機関の方へ」を選択し、ダウンロードしてご利用ください。ご面倒をおかけ致しますが宜しくお願いいたします。

新しいFAX番号 フリーダイヤル **0120-726-514**
運用開始日 令和4年12月1日(木)

看護職の就職説明会

日程 毎月第3土曜日 **時間** AM10:00～11:30(受付AM9:30～)

会場 新棟3階A会議室

申し込み方法 右のQRコードで看護部ホームページを開き、「応募フォーム」からお申し込み下さい。

お問い合わせ 看護部長:猪瀬明美 TEL 0297-74-5551(代)



「JAとりで通信」のアンケートにご協力をお願いします

「JAとりで通信」をお読みいただき有難うございます。

「JAとりで通信」をより親しまれ、役に立つニュースにするため皆様からのご意見、ご感想などをお聞きしたいと思います。右のQRコードからアンケートを開いていただきお答えいただくようご協力をお願い致します。



今月の表紙

薬剤部のスタッフです。全ての患者さんが安心して、効果的にお薬を使用していただけよう、薬剤部スタッフ一同心がけています。

薬剤部は、様々な医薬品を通して、患者さんの病気の治療に係わる部署となります。薬に関する様々な業務を行い、個々の患者さんの副作用歴・アレルギー歴、検査値、病状、さらには、薬の吸収や代謝を考慮し、処方薬が適切かどうかを確認し、患者さんにとって有効かつ安全な薬物治療をサポートさせていただいてい

ます。また、各病棟に病棟担当薬剤師を配置して医師や病棟スタッフなどと連携しながら安全な薬物治療が行えるように、病棟薬剤業務にも力を入れています。今後は今まで以上に「顔が見える薬剤師」を目指して、患者さん中心の薬物療法を提供できるように心がけていきます。

薬 剤 部

有効で安全な薬物治療をサポートします

薬品管理業務

医薬品の発注、払出等を通じ、適正な在庫管理、医薬品の安定供給に努めています。また、薬剤部内に限らず、病棟や各診療科の薬剤についても、保管環境や使用期限を把握し、医薬品の適切な使用に繋がっています。



外来・入院調剤業務

この部門は内服薬や外用薬、注射薬を医師の指示に基づき調剤し、その処方が医学的に妥当であるかの判断（処方監査）や、相互作用の確認、重複投与の防止、薬剤処方歴の管理などの業務を行うところです。外来部門では投薬と服薬指導も行っています



医薬品情報業務

医薬品情報室（DI室）では、医薬品を適正に使用してもらうために、最新の医薬品情報や副作用情報を集積・整理し、医療スタッフへの周知を行っています。また、病棟薬剤師と連携し、院内からの医薬品に関する相談などに対応しています。



注射セット業務

処方箋を基に入院患者さん一人一人が使用する注射薬を1回ずつ調剤しています。患者さんの検査値や、年齢、体重など様々な状況を考慮し、処方されたお薬の配合禁忌、投与量、投与速度、投与期間などのチェックを行います。ここで疑わしい点は医師に確認し、より適切な注射薬が安全に使用されるように努めています。



病棟薬剤業務

ICUをはじめとする急性期病棟～回復期病棟に至るまでのすべての病棟に担当薬剤師を配置しています。担当薬剤師の配置により、薬の専門家としての視点から得られた情報や効果的な薬の使い方の提案を他の医療スタッフと共有することで、チーム医療の一員としてよりよい医療の提供に努めています。



抗がん剤調製業務

抗がん剤の調製は正確で、無菌的かつ安全に行うことが求められるため、安全キャビネットを使用し専属の薬剤師が調製を行っています。がん治療は複数の薬剤を組み合わせで投与されるため、様々な情報を収集管理し安全で効果的な治療に繋がっています。また、必要時には患者さんへの薬剤指導も行っています。



薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師は、ベッドサイドで薬の飲み方や効き目などの説明を行うとともに、副作用の確認を行っています。また、患者さんの薬に関する疑問や不安を取り除けるよう、患者さん一人一人に合わせた分かりやすい説明を心がけています。



IVH調製業務

食事が摂れない患者さんへの栄養補給を目的としたIVH（中心静脈栄養法）を実施するため、高カロリー輸液を調製しています。調製はクリーンベンチで行い、埃や雑菌の混入を防ぎ無菌状態で行っています。クリーンベンチで調製することで、輸液を介したカテーテル感染のリスクを減らすことが可能です。





全国厚生連栄養士協議会 全国統一献立

おすすめ郷土料理

～令和4年11月18日の昼食に患者さんにお出ししました～

愛知県 きしめん

「きしめん」は、厚さ1mm、幅7mm～8mmほどの平たいうどんです。名前の由来は中国のお菓子である「碁石麺（きしめん）」からきていると言われています。この「碁石麺」は小麦粉を練って平たく伸ばし、竹筒などで碁石

の形に抜いて茹で、きなこをかけた食べ物です。愛知県で「きしめん」が浸透したのは、うどんよりもつゆの味が染みこみやすく、しっかりした味付けが好きな県民の好みに合ったからではないかと言われています。



エネルギー 340kcal
たんぱく質 14.1g
脂質 6.4g
食塩相当量 4.9g

材料

1人分

・きしめん 1玉
・ほうれん草 25g
・かまぼこ 20g
・油揚げ 1/2枚
・厚焼き卵 30g
・花かつお 適宜

A だし汁 25ml
しょうゆ 3g
砂糖 2g

B だし汁 300ml
しょうゆ 9g
みりん 5g
塩 1g
かつお節 6g

作り方

- ① ほうれん草はさつと茹で3cmの長さに切る。かまぼこは半月型の薄切りにする。
- ② 油揚げはさつと茹でて油抜きをする。1/2切りにしてAの調味料で味付けをする。
- ③ 鍋にBの調味料でめんつゆを作る。茹できしめんを加えて軽く煮て器に盛付ける。
- ④ 茹でたほうれん草・かまぼこ・厚焼き卵をきしめんの上に飾り花かつおをそえる。



診療放射線技師の役割

No.4 RI検査部門

今回は画像検査の一つであるRI検査について紹介します。レントゲン検査やCT検査が外部から体に放射線をあて、その通り抜けた放射線を利用して画像を作成するのに対し、核医学検査は体内に放射性医薬品を投与し、体から出てくる放射線を利用して画像を作成します。

RI (Radio Isotope) 検査は核医学検査とも呼ばれ、検査によって目的の臓器や組織に集まりやすい性質をもった放射性医薬品を主に静脈注射にて体内に投与し、目的の臓器や組織に集まるのを待つて撮影を行います。集まるまでの時間は検査によって異なり、投与後すぐに撮影する検査から、数時間後や翌日に検査するものまであります。撮影時間も検査によって十分程度から一時間程度まで幅広くあります。検査を受ける際にはよく確認して下さい。

CT検査やMRI検査などが主に臓器や骨の形から異常を見つけるのに対し、核医学検査は投与された放射線医薬品の集まり方を画像化することで臓器や組織の機能や代謝状態などを評価することが出来ます。機能や代謝状態の異常は形態変化の前



SIEMENS社製 Symbia T16



放射性医薬品

に現れることもあり、病気の早期発見や、今後の治療方針にもかわる大事な検査です。

この核医学検査に使用する放射性医薬品は保存しておくことができない高価なお薬ですので、キャンセルの場合は検査の前日までにご連絡をお願いします。

お薬の管理や検査時間の設定などが、他の放射線検査にはない核医学検査担当技師の重要な役割の一つです。

(診療放射線技師 根元 寛信)

わたしたちの職種をご紹介します

ケアマネジャー

ケアマネジャーは、高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで送ることができるよう、地域一体で支援する体制(地域包括ケアシステム)において、必要なサービスをコーディネートする役割があります。

当事業所には5名のケアマネジャーが勤務しており、月平均123名の利用者様を分担し、それぞれの「望む暮らし」が実現できる様に支援しています。介護度が高い場合でも「望む暮らし」に近づけるように、以前好きだったことや趣味など、小さなことでも実現できるように「どこまで自分のできるのか」、「どの様な(どの位)介助が必要なのか」を多職種(主治医、訪問看護師、理学療法士、作業療法士、福祉用具専門員、ヘルパーなど)の意見を参考にし、その人なりに実現できる目標を立ててケアプランを作成しています。そして定期的にモニタリングを行い、疾患や認知症などの進行による生活状況の変化を確認し、必要なサービスを提案しケアプランを変更しています。

このようにケアマネジャーは、利用者様の生活に対

する意向を受け止め、状況にあった適切なサービスが受けられるようケアマネジメントし、住み慣れた地域での暮らしを支援しています。

居宅介護支援事業所とりで 師長 佐藤 真美



転倒を予防するには

第3回 転倒を防ぐ為の運動のポイント

第2回の「転倒の要因」で、身体的要因のサルコペニアとフレイルについてご説明しました。加齢により年々筋肉量が減少していきますが、そのままでは要支援・要介護の状態となってしまいますので、筋力の維持、向上のための運動やバランスのとれた栄養等が大切です。そこで今回は、体力を保ち転倒防止につながる運動のポイントについてご説明します。

加齢により筋力が低下しやすい筋のトレーニング方法（例）

★ブリッジ：大殿筋のトレーニング



3～5 cm位お尻を持ち上げる。



身体が反るくらい持ち上げると、腰を痛める危険があります。

★スクワット：大腿四頭筋のトレーニング



- ・肩幅より少し広めに足をひろげる。
- ・つま先と膝を同じ方向にする。



- ・股関節と膝関節を曲げながら重心を真下に下げるイメージでやりましょう。



- ・膝への負担が大きくなるので、あまり良い方法ではありません。

★踵あげ：下腿三頭筋のトレーニング



- ・壁や机に手をつけてゆっくり踵をあげる。



- ・ゆっくり踵をおろす。

当院のリハビリテーション部のInstagramでは、この他にも患者様に有用な情報を発信しております！
こちらのQRコードからアクセス、フォロー宜しくお願いします！



連携医のご紹介

医療法人社団緑鈴会 守谷こどものところとからだのクリニック

院長 永吉 亮



診療科目 小児科、精神科、アレルギー科

診療時間 午前 9:30 ～ 12:00 月・火・水・木・金・土
午後 15:00 ～ 18:00 月・火・木・金
15:00 ～ 17:00 土

乳児健診 午前 9:00 ～ 9:30 月・火・水・木・金・土
予防接種 午後 14:00 ～ 15:00 月・火・木・金・土

休診日 日曜日・祝日

連絡先 TEL 0297-45-4192
〒302-0132 守谷市松並青葉4-2-3

2019年に出身地である守谷市の松並青葉地区に、小児科専門クリニックとして開業いたしました。小児科専門医、児童精神科医として、体の病気から心の不調まで幅広く診療を行っています。また、小児アレルギー専門医の先生に来ていただき、アレルギー診療にも力を入れています。クリニックで手に余る難しい症例は、JAとりで総合医療センターへご紹介

させていただきますが、いつも快く受けていただいております。子育てで困ったとき、だれに相談したらいいかわからない不調の時に頼れるクリニックとして、「子どもたちの幸せな発達・発育を支援する」をモットーに地域の皆様のために頑張っております。

うちの新人をご紹介します



4階西病棟の5人の新人看護師をご紹介します。とてもチームワークのいい5人です。入職後8カ月、辛い日、落ち込む日もあったはずですが、5人で励まし、助け合いつながり乗り越えてきました。先輩スタッフも細やかに目と手と声をかけ、その甲斐もあって5人とも仕事熱心な、そして「患者さんに優しい」看護師として日々成長中です。そんな5人は入職時より「患者さんに寄り添った看護師でありたい」と話しています。4西自慢のこの5人であれば、今後患者さんから多くのことを学び、思い描いた看護師になってくれると大いに期待しています。

（師長 石川 弘子）

4階西病棟 看護師